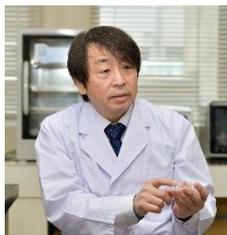


令和6年度 第3回 超越バイオメディカルDX研究拠点 エクセレントコアセミナー

日時：令和7年 3月13日（木） 15:30 - 16:10

開催場所：JAISTイノベーションプラザ2F シェアードオープンイノベーションルーム

要予約：定員30名



バイオデジタルツインを目指した生体模倣システムと細胞加工技術

島崎 猛夫 准教授

金沢医科大学総合医学研究所

【講演要旨】

工学系技術と細胞技術を組み合わせてヒト臓器の機能の一部を再現することで病態解明や薬剤開発を行う技術が登場し、総称的に生体模倣システム（microphysiological systems : MPS）と呼ばれています。本発表では、これまで取り組んできた生体模倣システムと細胞加工技術・バイオデジタルツインを目指した概念の紹介を行い、その実装に向けて皆様とのコラボレーションのきっかけになることを目指しています。

【ご略歴】

平成 5 年に浜松医科大学を卒業し、平成 8 年 7 月に金沢大学医学部第一内科入局。平成 14 年に金沢大学大学院にて医学博士号取得し、以後は、臨床経験を積みながら研究活動も行ってきた。平成 18 年に金沢医科大学に移籍。専門は、消化器内科学。消化器病学会専門医・指導医、肝臓病学会専門医指導医、内視鏡学会専門医、膵臓病学会指導医。現在は、金沢医科大学総合医学研究所先端医療研究領域バイオ・デジタル応用研究分野准教授。消化器内視鏡学併任。病院医療情報部・部長、大学統合情報管理室副室長を併任しており、金沢医科大学病院・大学の電子カルテやデジタル関係を担当。研究は、がん研究・再生医療研究を行っている。細胞共培養容器 NICO-1 シリーズを開発し、大学発ベンチャーとして株式会社ギンレイラボを設立。株式会社ギンレイラボは、日経 B P 社が選ぶバイオ・ヘルスケア スタートアップ総覧に 3 回連続で掲載。

令和6年度 第3回 超越バイオメディカルDX研究拠点 エクセレントコアセミナー

日時：令和7年 3月13日（木） 16:10 - 16:50

開催場所：JAISTイノベーションプラザ2F シェアードオープンイノベーションルーム

要予約：定員30名



生物標本透明化技術の開発とその社会実装に向けた取り組み

八田 稔久 教授

金沢医科大学医学部解剖学 I

【講演要旨】

顕微鏡の進歩とともに生物組織を透明化することの有用性が再発見され、多くのプロトコルが提案されています。一方で、生物標本の透明化は100年以上前から知られる枯れた技術であり、美術からレギュラトリーサイエンスまで様々な分野に根付き用いられてきました。本講演では、私たちが開発した生物標本透明化技術RAP & CLAPを初・中等理科教育ならびに薬剤安全性試験（催奇形性試験）で活用する取り組みを紹介します。

【ご略歴】

- ・ 平成元年3月 島根医科大学（現・島根大学）、医学部医学科卒業
- ・ 平成元年5月 医師免許取得
- ・ 平成3年3月 島根医科大学医学部助手（第一解剖学）
- ・ 平成6年～7年 文部省在外研究員（甲）として米国NIH/NICHD（National Institute of Child Health and Disease）に留学
- ・ 平成7年12月 博士（医学）（島根医科大学）
- ・ 平成14年2月 島根医科大学医学部助教授（第一解剖学）
- ・ 平成19年4月 金沢医科大学医学部教授（解剖学 I）、現在に至る
- ・ 日本解剖学会学術評議員（平成16年8月～現在に至る）
- ・ 日本先天異常学会評議員（平成10年4月～現在に至る）
- ・ 日本先天異常学会理事（平成30年4月～現在に至る）
- ・ 日本先天異常学会機関紙Congenital Anomalies、編集委員長（令和2年1月～令和6年3月）
- ・ 日本組織細胞化学会機関誌Acta Histochemica et Cytochemica編集委員（令和2年1月～現在に至る）
- ・ 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（平成16年～現在に至る）
- ・ 内閣府食品安全委員会農薬専門調査会専門委員（生殖発生毒性担当、平成8年4月～現在に至る）